

# 古代東北と城郭遺跡

開館10周年  
記念展

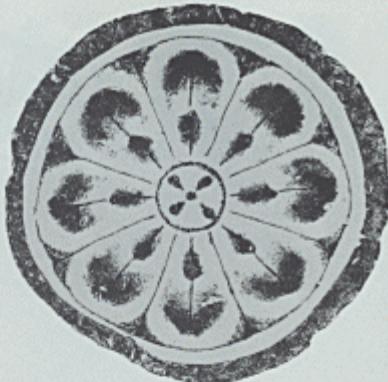


東北歴史資料館

## 多賀城と古代東北

多賀城跡は、古代東北において政治の中心的役割を果した役所の跡である。1963年に伊東信雄博士を中心として発掘調査が開始された。ついで1969年には多賀城跡調査研究所が設置され、以後継続的に発掘調査が行われている。当館では、1974年に開館を記念して「多賀城と古代日本」展を開催したが、その後も漆紙文書の発見や「政庁跡」調査報告書の刊行などの成果があった。

今回は開館10周年・開所15周年を記念し、最近の成果をもりこみ多賀城をめぐる古代東北の展示を試みるものである。展示や調査にご協力いただいた方々ならびに地元の人びとに深く謝意を表する。



▲玉造橋推定地の古川市名生館遺跡

### ① 多賀城以前の東北

厳しい気候の東北でも、およそ2000年前の弥生時代から稲作が行われていた。4世紀以降は東北地方も豪族の支配する社会となる。そして特に南半には大形の古墳も多く集落跡も多数分布している。7世紀半頃までは、全国各地をそれぞれの地方豪族が治めていた。しかし、7世紀後半になると、政府は律令などを整え、中央集権的に全国を支配するようになった。仙台市郡山遺跡や古川市名生館遺跡は多賀城以前にも律令支配が東北地方に及んでいたことを示す役所の跡である。



▲多賀城南門から政庁にいたる道路と排水暗渠



▲左図の暗渠から出土した郷里制を示す木簡

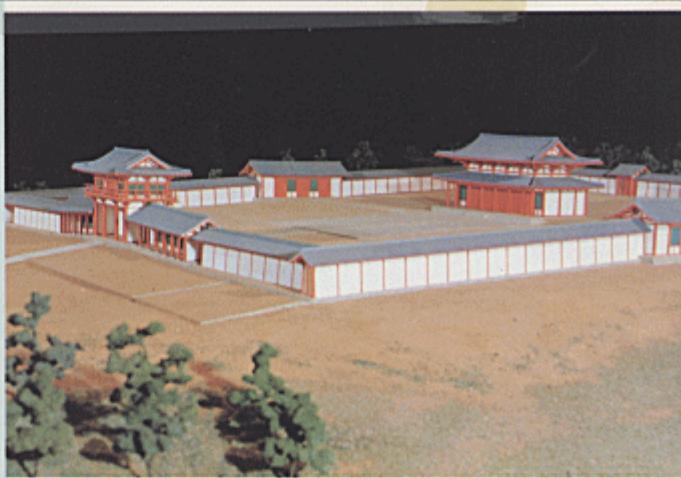
### ② 多賀城の設置

多賀城は8世紀の前半に造られた。南に仙台の平野を一望でき、東には塩釜の港をひかえた地である。

7世紀末から8世紀初めにかけて藤原京・平城京などの都が整えられた。さらに律令政府は地方支配の貫徹をめざし、大宰府や国府などの整備を行った。そういう動きの中で、東北支配の強化をねらい本格的な官衙として建設されたのが多賀城である。この地が選ばれたのは、政府が東北唯一の生産力をもつ仙台平野の一画に、東北支配の根拠地を求めたためであろう。

### ③ 支配の強化と蝦夷の抵抗

8世紀の後半になると、政府は東北の支配を強化する。それは多賀城の大々的な改修や陸奥の桃生・伊治、出羽の秋田・雄勝など諸城の建設に示されている。これに対し、地元民である蝦夷は、激しく抵抗し、宝亀11(780)年には政府の高官が殺され、多賀城が放火される事件も起きた。その後9世紀初めまでは激しい戦いがくりかえされた。坂上田村麻呂は、この数十年に及ぶ混乱の終結に功績があったといわれている。胆沢城・志波城は、安定した北上盆地に田村麻呂によって築かれたものである。



▲多賀城政庁模型 8世紀後半の姿である

### ④ 平安時代の多賀城

平安時代には、陸奥国府は多賀城に、出羽国府は酒田市城輪に置かれた。さらに、陸奥国では北半に胆沢城が、出羽国では秋田平野・横手盆地に秋田城・雄勝城が各々置かれ国府の補助的役割を持っていたようである。多賀城内の中央部には重要な儀式を行う政府がありそのほか各所に官衙や工房が配されていた。このような姿は奈良時代も同様であったと考えられる。10世紀頃になると多賀城の使われ方にも変化がみられ、中頃には8世紀前半からつづいた城柵としての姿がみられなくなる。



▲多賀城跡出土の硯

### ⑤ 多賀城後の東北

10世紀後半から11世紀にかけて、陸奥守が中央の官人や武士をひきつれて東北地方に下向し、この官人や武士が土着して郡司や在庁官人になって勢力をふるった。これら武士たちの対立抗争が前九年・後三年の役である。安倍氏の滅亡後、清原氏、それにつづく藤原氏が東北地方を実質的に支配したといわれるが、陸奥国府は多賀国府と呼ばれいぜんとして機能していたようである。ただ、10世紀半ば以降の国府がどこにあたるかについては、これまでの発掘調査では解明されていない。



▲毛越寺庭園 岩手県平泉町



▲史跡公園として整備された政府跡

### 多賀城跡へのごあんない

古代みちのくの都多賀城は、多くの歴史を秘めて今もなお地中に眠っている。20年前に開始された発掘調査によって、万葉歌人大伴家持や征夷大將軍坂上田村麻呂らが活躍した時代の姿がしだいに明らかにされている。それらのようすを軸で感じてもらうために、発掘された地区的建物や住居などをわかり易く表示し、散策路で結ぶなど史跡公園として整備している。資料館から赤い園路を築地に沿って10分ほど散策すると、南門跡がある。近くには奥の細道を訪ねた芭蕉が感涙にむせんだ多賀城碑がひっそりと往時のおもかげを伝えている。さらに北へ向って5分も歩くと、多賀城の中心部政庁がある。正殿跡の前に広がる石敷広場の上に立ち目をとじると、自分が正装した古代の役人になり元旦の儀式に参列しているかのように想えてくるでしょう。

### ●公開講座について

当館では「多賀城と古代東北」展によせて下記のとおり、公開講座を開催いたします。最近の調査研究成果を新しい視点でとらえ、東北古代史像を再検討しようとするものです。講師は館員・所員が当ります。なお聴講は無料です。土曜日午後1時30分～4時30分。

- |                |             |
|----------------|-------------|
| 1 律令国家と東北      | 8月4日 吉沢 幹夫  |
| 2 東北の城櫓        | " 桑原 滋郎     |
| 3 郡山・若生館遺跡と多賀城 | 8月11日 進藤 秋輝 |

4 多賀城の移り変り	8月11日 白鳥 良一
5 多賀城の出土遺物	8月18日 高野 芳宏
6 木簡・漆紙文書による古代東北	" 佐藤 和彦
7 古代東北の集落	8月25日 小井川和夫
8 鮎麻呂の乱と蝦夷	" 佐々木常人
9 多賀城の保存と活用	9月1日 古川 雅清
10 展示解説・多賀城跡見学	" 桑原 滋郎 古川 雅清

### ●次回の展示案内

次回「奥州路」展は11月20日から来年4月14日まで開催いたします。東北地方の旅は、新幹線や自動車道の開通によって大きくその様相を変えました。この展示は、江戸時代の東北地方の主要街道であった「奥州街道」のありし日の姿を人や物の動きを通してあとづけようとするものです。

### 多賀城と古代東北

〈期間〉昭和59年7月17日～11月11日  
休館日：日曜日・祝日  
無料デー：11月3日(文化の日)

### 東北歴史資料館

多賀城市浮島字宮前133 TEL.02236(8)0101